

7-4 小学校 5年生社会科 指導事例 「自然災害とともに生きるわたしたち」 (自然災害の防止)

【単元目標】

- ・我が国では、たくさんの自然災害が起こっていることに気付き、その災害を防ぐために県や市などによって、たくさんの工夫や努力がなされていることを考えるようにする。
- ・自分自身ができる防災を考えることで、よりよい防災のあり方や考え方を日ごろから意識して生活することの大切さに気付く。

【目指す子どもの姿】

調べたことや経験をもとにして、自分の考えを進んで表現する姿。他者の考えを聞き、自分の考えを改めて考え直したり、新たな考えを見つけたりする姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全4時間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>日本は、災害がとても多い?①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本で自然災害が多い理由を考える中で、学習問題を見つける。 <p>C：資料を見ると、たくさんの地域で災害が起こっている。</p> <p>C：地震は、とても多いよね！この間もあったよね…。</p> <p>C：地震だけでなく台風や土砂崩れもあるね。地域によって大雪も！</p> <p>C：日本各地で災害が起きている。怖い…。災害を防げないのかな？</p> <p>C：災害は防げないよ。だって自然の力だもん。</p> <p>T：じゃあわたしたちは何もできないのだろうか？</p> <p>C：いや、何か対策を考えることができるよ。</p>	<p>ポイント1</p> <p>関心をもつ</p>
<p>自然災害から身を守るにはどうすればよいのだろうか?①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害に向けた対策にはどのようなものがあるのか話し合う。 <p>C：台風や土砂災害は、気象予報で未然に確認することができる。</p> <p>C：地震なら、緊急地震速報がある。大きな地震の前に知らせてくれる。</p> <p>C：大雪の地方や大波がくる地域は、未然に対策しているんだよ。</p> <p>C：例えば、融雪溝とか堤防とか…。</p> <p>T：わたしたちは、何か対策しているのか考えてみよう。</p> <p>C：地震のことなら考えることができそうだな。</p>	<p>ポイント2</p>
<p>大地震に備え、わたしたちができることは?①(授業展開例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震に備えて、できることを一人ひとりが考える。 <p>C：避難用のリュックサックを用意しているよ。</p> <p>C：飲料水や非常食、懐中電灯、携帯ラジオなど。</p> <p>T：これで準備は大丈夫なのかな？</p> <p>例えば、家に一人でいるとき、地震が起きたら自分で行動できる？</p>	
<p>友だちの考えを聞いたうえで、考えをまとめよう①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り、自分の考えをまとめる。 <p>C：どこに逃げればよいか分かってないな。どうすればいいのかな？</p> <p>C：自分たちの住んでいる地域は、それぞれ違う。だから、自分のまちの地形や避難する場所をちゃんと確認しておくことが大事だと思った。</p> <p>C：私は、やっぱり地域の関わりも大切だと気付いた。</p> <p>C：もっと地域の行事とか参加してみようかな？</p>	<p>自分の考えを 再構築する</p>

写真や映像など具体的な資料を活用して、児童が社会事象に興味・関心をもてるような提示をしましょう。

児童が社会的事象を身近に感じるために、写真や映像などの補助資料を有効に活用しましょう。見たことや経験したことがないものでも、事実を確認しやすくなります。例えば、津波被害の様子を児童に伝えたいときに、実際の東日本大震災の映像を活用したり、防潮堤の高さを校舎の大きさに見立てたりすると、実際の被害の大きさが実感できるようになります。災害資料の中には人の生死にかかわるようなものもあるため、児童の実態に合わせて精選しなければいけませんが、意識的な資料提示により子どもの思考が深まったり切実感をもって授業に臨んだりすることができるように工夫しましょう。

学習課題に対し、教師も児童とともに考える姿勢をもって授業に臨みましょう。

問題解決学習では、児童の主体的で対話的な学習の展開が期待できます。しかし、学習の展開を単に児童任せにするのではなく、児童の発言の真意に迫るよう教師が問い返しをしたり、新たな話題提起をしたりすることで児童が思考できる時間にしましょう。

学習展開例（第3時）

T：今日の学習は「大地震に備え、わたしたちができることって何だろう？」ですね。

C：僕のうちでは、避難するときのためにリュックサックを用意しているよ。

飲料水や非常食、懐中電灯、携帯ラジオなどが入っているよ。

C：私の家では、非常食や飲み水を家族が1週間過ごせる分くらい貯めているよ！

C：どの位の量なの？

C：5人家族で、水だと100L！

C：えー！？そんなに必要なの？私たちは結構水を使っているんだな…。

T：準備するものってたくさんあるんだね！だんだん必要なものが見えてきたね。**みんなこんなに準備できているなら、いつ地震が起きても一人で逃げられるね？**

C：いや…。それは…。

C：一人でいるときに地震がくるのは、心配…。

T：何が心配？

C：家族と会えるかなとか、無事かなとか…。どこに逃げればいいのか約束はしているけど、実際に一人で行ったことがないな…。

T：みんなはどう？

C：うん…。(ざわざわ…。隣同士で話し合いが始まる)

T：じゃあ改めて、一人でも大丈夫なように「大地震に備え、わたしたちにできることは何か？」を考えてみよう。

.....

C：僕は、ハザードマップを信じて逃げる道をしっかり知ることが必要だと思う。

C：私は、もっと地域の道路や高台とか知っておくことも必要かなと思う。